

[右ページ]
ローズゴールド仕様または
ホワイトゴールド仕様の
ホワイゴールド仕様の
カラトラバ6119モデルは、
3919モデルで著名となった
クラシックなクルー・ド・パリ
モデルを現代的に解釈した、
パテック フィリップの新作で
ある。6119rモデルは、ローズ

ゴールド・ケースとグレイ
仕上げのシルバー文字盤を
組み合わせ、ファセット
仕上げの18金ゴールド種字
オビュ(弾丸)型インデックスを
備え、いずれも18金ローズ
ゴールドのドファイヌ型時
分針とシュヴェー型秒針を
配している。6119cモデルは、

ホワイトゴールド・ケース、
縦サテン仕上げのチャコール
グレー文字盤に、ローズ
ゴールド・モデルと同じ
スタイルの18金ホワイト
ゴールド種字インデックスと
指針を備えている。

もちろん、巨匠パテック フィリップの最もシンプルで
純粋な表現のひとつともいえるこの新作にも、時計製
作の世界における最強のタイムピースたちを育んできた
のと同じ情熱が息づいている。しかしこのタイムピース
の創作は、マーケティングの正統的手法や、ギャラリ
からの鳴り物入りの声援とは無縁のところで行われた。
この新作は、ファッション・ステートメントでも、精密機
械工学上の綱渡りでも、はたまた感傷的な手工芸品で
もない。これは、いうならば時計製作のための時計だっ
たのである。

クラシックなラウンド型腕時計を代表するカラトラバ・
コレクションは1932年、モデル番号を与えられたパ
テック フィリップ最初のタイムピースである96モデルに
始まる。このコレクションの創作は、ブランドの新しい
オーナーとなったスターン家が踏み出した最初のステッ
プであった。そしてほぼ90年後の今日も、96という数字
は、ドファイヌ型指針とファセット仕上げのオビュ(弾
丸)型種字インデックスを配した、カラトラバの原型を
象徴している。

しかしカラトラバという名を聞いて多くの愛好家の心
に浮かぶのは、クルー・ド・パリ(ホブネイル)装飾のベ
ゼルを備えた、いま一つの時刻表示のみのパテック フィ
リップ・モデルである。1934年に96Dモデル(Dは装
飾の意)として誕生して以来、繰り返し登場した。最も
著名なモデルは、1980年代中頃から1990年代中頃
までマニファクチュールパテック フィリップの広告を
飾った3919モデルである。最近では2006年に発
表された5119モデルがあるが、クルー・ド・パリ・ベ
ゼルは、そのなじみ深さから、むしろ目につきにくい特
徴であった。

しかしティエリー・スターンの熱意からも、今回は状
況が異なるだろうと思われる。新作の
発表は、その控え目な外観にもかかわ
らず、ティエリー・スターン時代のパ
テック フィリップにおいて最も重要な
もののひとつとなるだろう。

クルー・ド・パリ・ベゼルのカラトラバ
は、多くの人々にとって人生最初のパ
テック フィリップであり、スターン家も
例外ではない。「親戚の誰もが、普通
この時計を着用していました」とティ
エリーは回想する。「ある時、いとこ
話しました。今日50歳の彼は、20歳に
なった時に3919モデルを贈られた
のですが「少し古風で小さすぎるので、
今は使っていない」と言うのです。私
はもう一度時計を見て、「彼の言う通り
だ、美しい時計だが、今日向きではな
い」と思いました。」

6119モデルに加えられた最も重
要な変更はケース径であり、3919
モデルの33.2ミリから39ミリへと大
きくなった。ティエリーは説明する。
「ニューモデルは、より現代的で男性的
になりました。プロトタイプは直径40

この現代的なカラトラバ《クルー・ド・パリ》は、
次世代の高級時計愛好家のタイムピースである。



文 ニコラス・フォークス

純粋さと力

カラトラバ・コレクションの最新作は、落ち着いたピュアな
外装の下に、精度の最適化とパワーリザーブの延長を実現した、
まったく新しい手巻ムーブメントを秘めている。
時刻表示のみの伝説的なクラシックをきわめて現代的に
解釈した、パテック フィリップの新たな傑作といえよう。



エレガンスの変遷を見る。
(右) カラトラバ・ファミリーに受け継がれた主要な特徴は、純粋でシンプルな文字盤と控え目でスリムなケースである。新しい6119モデルは、1932年の96モデルと1934年の96Dモデルを特徴づけていたファセット仕上げの18金ゴールド種字オビュ型インデックスに回帰している。クルー・ド・パリ・ベゼルは、96Dモデル、3520Dモデル、

3919モデル、3992モデルなどに見られる。6119モデルのカーブしたラグは、96モデルと3796モデルからティエリーによれば、カラトラバをリニューアルする際の思想は、過去のデザイン(著名な3919モデルなど)をコピーすることではなく、「クラシックなラインを保ちつつ、若い世代が着用したいと思う新しい時計」を創作することである。



96モデル (12-120)
ケース径: 30.5 mm
1932年



96Dモデル (12-120)
ケース径: 30.6 mm
1934年



2526モデル (12-600 AT)
ケース径: 35.5 mm
1953年



3520Dモデル (177)
ケース径: 32 mm
1972年



3796モデル (215 PS)
ケース径: 31 mm
1982年



3919モデル (215 PS)
ケース径: 33.2 mm
1985年



3992モデル (240)
ケース径: 33 mm
1988年



5107モデル (315 S C)
ケース径: 37 mm
2000年



5115モデル (215 PS)
ケース径: 35 mm
2000年



5120モデル (240)
ケース径: 35 mm
2001年



5196モデル (215 PS)
ケース径: 37 mm
2004年



5119モデル (215 PS)
ケース径: 36 mm
2006年

匠であるためには、非常に薄い手巻ムーブメントの製作技術は欠かせないのです。」
「私たちは過去の知識を決して忘れてはなりません。そうでないと、おそらく5年後には手巻ムーブメントが存在したとすら覚えていないでしょう」と彼は微笑み、こう結ぶ。「そうなら悲しいですね。多くの人々は、今でもリュウズによってぜんまいを巻き上げ、時計が命を吹き込まれて動き出すのを見たいと思っ

ています。この動作を毎朝行うことが喜びであり、私にはそれがよく分かるのです。」
現代に蘇ったカラトラバ(クルー・ド・パリ)と、エレガントで機能的な新しいキャリバーにより、われわれは次世代の高級時計愛好家のためのタイムピースを得たのである。これは親指と人差し指でリュウズをつまみ、巻き上げる感触が、高級時計の不可欠な要素であると考えられる人のためのモデルである。

新しいパテックフィリップ・モデルの発表は常にエキサイティングであるが、この新作は安心感も与えてくれる。今年、来年、さらには次の10年間をも見すえたモデルである。それはジュネーブ時計製作の最も基本的な価値をいま一度、明白に立証するモデルである。ティエリーは語る。「3919モデルを見ると、祖父のことを思い出し、新しい6119モデルを見ると、息子たちのことを考えます。」

6119モデルのより大きなケース径(39 mm)と一新された文字盤デザインは、クラシックなカラトラバに洗練された現代的な新しいシルクスイスを与えている。ティエリー・スターンの言葉を借りれば、「よりパワフルになりましたが、ビュアな外観は変わりません。」(上下) 著名なクルー・ド・パリ・ベゼルに続くカーブしたラグが、モダンでスポーティな雰囲気を出し、(下) 4分割されたスモールセコンド・サブダイヤルとシュマン・ド・フェール(レール)型分スケールが活気を与える文字盤。「文字盤は活き活き

していなければなりません」とティエリーは語る。(左上) サファイアクリスタル・バックを通してまったく新しいキャリバー 30-255 PSを鑑賞することができる。27石のルビー、コート・ド・ジュネーブ 面取り、ポリッシュ仕上げの施された6枚のエレガントな形状の受けを備えている。ムーブメントのアーキテクチャーは、各機能に個別の受けを持たせており、造形美とパフォーマンスが完璧に調和している。とりわけ並列に配置された2個の香箱により、65時間のパワーリザーブが実現されている。



ミリからスタートしましたが、少し大き過ぎ、39ミリに落ち着きました。1ミリはそれほど大きな差ではないように見えるかもしれませんが、実は大きな違いがあります。2つのプロトタイプを並べてみると、その違いが分かります。また96Dモデルへの回帰も明らかである。ファセット仕上げのオビュ型種字インデックスとド・パリ型指針は、3919モデルでおなじみのブラック塗装ローマ数字とリーフ指針の組み合わせと比較す

ると、より実用性の高い雰囲気を醸し出している。6119モデルは、先行するどのモデルより大きいにもかかわらず、文字盤のスペースを埋めるために苦労しているという印象はない。シュマン・ド・フェール(レール)型分スケールと6時位置の4分割されたスモールセコンド・サブダイヤルなどのディテールは、優れたアーティストが筆圧を自在に変えて無限の表現を引き出すごとく、デザインにさらなる力を与えている。6119モデルの個性は、3919モデルのよりデリケートな慎重とは完全に異なる。それにもかかわらず、両モデルをつなぐ血統は明らかである。

サイズが根本的に見直されたことにより、新しいキャリバーのためのスペースが生まれた。ティエリーにとって、小さいキャリバーを大きなケースに組み込むことは、好ましくないからざる欺瞞であった。ニューモデルは、キャリバー 215 PSよりもサイズの大きい新しい手巻ムーブメントを開発する機会として利用された。厚さを2.55ミリに堅持することで、スリムなケースのデザインが可能となった。65時間のパワーリザーブは、いずれも2番カナに噛み合う、並列に配置された2個の香箱により達成された。この構成は、パワーリザーブを延長するだけでなく、ムーブメントのトルクを強化した。テンプの慣性モーメントは倍増(パテックフィリップのテンプ振動数が4ヘルツのムーブメン



ト中、最も大きい)し、歩度の安定性が向上し、精度調整も容易となった。新しいキャリバーは信頼性を念頭に置いて設計されており、主要構成部品を保護するために6枚の受け(フリッジ)が組み込まれている。新しいキャリバーは、パテックフィリップが時計業界でのリーダーシップにふさわしい責任を自らに課していることを示している。ティエリーは語る。「今日、ほとんどの人は自動巻にし興味を示さないため、新しい手巻ムーブメントの創作には勇気が要ります。しかし時計を本当に愛する人にとって手巻キャリバーには特別な何かがあります。多くのお客様は手巻タイムピースに喜びを感じています。他のメーカーであれば、手巻キャリバーを開発するリスクは冒さなかつたでしょう。しかし当社にはすでに自動巻ムーブメントの幅広いコレクションがあり、手巻を楽しむ純粋なファンがいると堅く信じているので、敢えてリスクを冒す決心をしました。また、手巻は時計産業史の一部となっています。時計分野の真の巨

「リュウズを回すと命を吹き込まれて動き出す手巻キャリバーには、特別な何かがあります。」